



東北大学

# Newsletter

TOHOKU UNIVERSITY Diversity, Equity & Inclusion NEWS



## 東北大学DEI推進センター

Vol.4  
2025 Mar

「DEI」とは、「Diversity(多様性)」「Equity & Inclusion(公平性と包括性)」からなる頭字語(アクリロニム)。東北大学が「紡ぐ」男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指しています。

### Headline News

## 東北大学DEIシンポジウム 「ジェンダード・イノベーションが切り拓くDEI」の開催



2段目左より、榎本大貴氏、北川尚美教授、鶴田想人氏、小宮仁奈子氏、白川裕也氏  
1段目左より、田中真美副理事、富永悌二総長、ロンダ・シービンガー教授、  
大隅典子副学長、秋山正幸教授



ロンダ・シービンガー教授



田中真美副理事 (DEI推進センター長)



パネル討論の様子

### 東北大学DEIシンポジウム「ジェンダード・イノベーションが切り拓くDEI」が11月17日開催されました。

富永悌二総長の開会の挨拶で始まった当日のシンポジウムは、第1部としてジェンダード・イノベーションの創始者で、EUのジェンダー政策に深く関わってきたスタンフォード大学のロンダ・シービンガー教授の基調講演と田中真美教授(副理事 (DEI推進担当)、DEI推進センター長)による本学のDEI推進の報告があり、第2部では大学、企業、また行政におけるジェンダード・イノベーションの実践とその可能性について報告と議論がありました。基調講演でシービンガー教授は、これまでの科学発展の中でいかに性差が考慮されてこなかったかという歴史的事実や現代にもさまざまな科学分野の商品開発に知らず知らず固着されたジェンダーイメージが利用されていることを指摘しました。例えば、日本で開発されたロボットであるペッパーは、見た目や声はジェンダーニュートラルに見えるが、欧米の人ならアイアンマンという映画の秘書役の女性を連想するだろうといった、言われてみれば女性名だったという新たな気づきを与えてくれました。また、ジェンダード・イノベーションというアプローチは、性・ジェンダー・人種や民族、また地理的位置など利用者を取り巻く多様な因子を考慮する交差分析を通じて科学的発見と革新の促進を目指していること、そして実際にこのアプローチを利用して、誰もが安心して利用できる商品開発やサービス提供がなされている事例についても紹介がありました。

第2部のパネル・ディスカッションは、シービンガー教授の著書を翻訳し、無知学の観点から科学史を研究している鶴田想人氏(大阪大学)がファシリテーターを務め、本学工学研究科教授で(株)ファイトケミカルプロダクツの取締役も務めている北川尚美氏、仙台市経済局スタートアップ支援課の白川裕也氏、(株)仙台三越代表取締役社長の小宮仁奈子氏、(株)LITALICOの執行役員CQOでLITALICO研究所所長の榎本大貴氏をパネリストに、ジェンダード・イノベーションの可能性と課題について議論していただきました。

開催日：2024年11月17日(日)13:00-15:45

開催方法：ハイブリッド開催(会場・オンライン(ZOOM(ウェビナー)))

会場：マルチメディア教育研究棟2階 マルチメディアホール(川内北キャンパス)

対象：学内教職員、学生、一般の方

参加人数：172名 / 対面参加72名・オンライン参加100名(関係者含む)



DEIシンポジウム  
基調講演・講演・パネル討論の  
アーカイブ動画はこちらから



## 第2回東北大学DEI推進フォーラム

### 「東北大学が目指すDEIとはーサポート現場の学生からの声」の開催

日時 2025年3月7日(金)10:00~12:00 開催方法 ハイブリッド開催(オンライン:Zoom 会場:片平北門会館2階エスパス)

参加人数 75名/対面参加30名、オンライン参加45名(関係者含む)

2025年3月7日片平会館2階のエスパスで、学内限定イベント第2回目の「DEI推進フォーラム」が、学内の5つの機関と学生サポーターからの発表といった盛りだくさんの内容で行われました。

第1部では、まずグローバルラーニングセンター(GLC)の渡部留美准教授から24年度に実施した留学生生活調査アンケートで見た多様化している留学生の現状やニーズに関する報告がなされ、次にキャリア支援センターの王潔特任助教から新たに始まった外国人留学生のための就職支援プログラムの紹介と日本人学生の就労支援と異なる点などを報告していただきました。続いて国際サポート課の宮元博央課長より22年に設置された国際サポートセンターの活動の紹介があり、国際卓越研究大学として今後ますます増える外国籍構成員のサポートの充実化にどう向き合うかなどの課題についても触れられました。学生相談・特別支援センターからは高橋真理相談員より、今年度初めて実施したインクルーシブ防災訓練の取り組みとそこで見えた課題について報告がなされました。そして、第1部最後の報告としてDEI推進センターが今年度に行った大規模アンケート調査報告の速報として研究者向けの調査で明らかになった男女差の分析結果をセンタークロアポ教授である臼井恵美子教授から報告しました。

第2部では、サポート現場で関わっている学生の声として、留学生Help Deskの保坂夢さんとペニャ ロドリゲス セルヒオ アルベルトさんが登壇し、国内学生と留学生当事者としてそれぞれ留学生Help Deskに関わる意義と役割などについて話しました。続いて、昨年10月から運営しているDEIラウンジで学生スタッフとして活動している加藤結子さんと池田麻里子さんより、DEIラウンジ運営報告とラウンジに期待する声、そして今後の課題について報告がありました。

今年度の「DEI推進フォーラム」は、昨年本学が国際卓越研究大学に選定されたことを受け、留学生や外国出身教職員に関わる取り組みが主なテーマとなりましたが、他にも障がいを持つ方の災害時の対処やDEIにおける学生の関わりなど、支援する側と支援される側、「誰もが輝ける大学」を目指す意味でも、昨年より多様な声を発信することができました。

当日は大学役員として、人事労務・環境安全・施設担当の山下恭徳理事が対面で、ダイバーシティ・広報担当の大隅典子副学長はオンラインで参加され、活発に質問やご意見を述べました。



参加機構・学生サポーターとの集合写真



参加者全員のディスカッション



山下恭徳理事(人事労務・環境安全・施設担当) 大隅典子副学長(ダイバーシティ・広報担当)

当日の発表資料は  
こちらから



## 東北大学DEI推進 部局別GOOD PRACTICE

東北大学DEI推進委員会において報告された、各部局からの「東北大学DEI推進 部局別GOOD PRACTICE」を紹介いたします。(2024年5月時点)

### ●ジェンダーパリティーに向けての人事戦略

- ・若手・女性・外国人教員の雇用強化を目的とする特定研究 助教ポストを新設
- ・新規採用者に占める女性研究者比率30%の目標達成のため、各学科の採用状況を可視化して共有
- ・戦略的人事の促進に係る支援制度を活用した女性と外国人教員の積極的な採用

### ●女性研究者育成のGoodな取り組み

- ・女子大学院生奨励賞(七星賞)の設置による研究奨励の実施
- ・学部的女子学生比率を増やすため、初等中等教育機関に対して工学の魅力伝える活動の推進
- ・授乳室、休憩室を設置するなど、女性が働きやすい環境であることを研究所として積極的に発信

### ●DEI推進GOOD PRACTICE

- ・人事に携わる教員に対し無意識のバイアス払拭のための動画視聴の実施
- ・女子学生休憩室を、乳幼児・女子学生休憩室とし チャイルドケア目的の男性の使用を認めるよう内規を改訂
- ・室内に生理用品の常備
- ・若手研究者を主体としたDEI推進ワーキンググループが研究所におけるジェンダー、国際性、文化などのダイバーシティ拡大のための環境整備を実施
- ・所内の会議・イベントは、日英同時翻訳および日英 資料によるバイリンガル環境

詳細は  
こちらから





# STEM分野の女性の動向： 学童期から高等教育～社会人以降まで

STEM分野からの女性の離脱はいつから始まるのか。その原因は何なのか。

当日のセミナーでは、労働経済学を専門とし、男女間の賃金格差などを研究している臼井恵美子教授(当センター教授(クロスアポイントメント)/一橋大学経済研究所教授)の近年の調査分析を参考に、STEM分野における男女格差を縮めるために必要な取り組みについて議論しました。

臼井教授は、これまで実施した「理工系分野卒業者の就業における男女の賃金格差」、「高校1年生の生徒と保護者向けのアンケート調査」、「小中学生の保護者向けの理科実験教室に関するアンケート」という3つの調査分析を紹介し、女子学生の理科離れがかなり早い段階から親や社会の無意識のバイアスによって進んでいる実態をお話しされ、公教育の中で理科にたくさん触れられる機会を提供することが大事であると指摘されました。続くパネルディスカッションでは、東北大学副学長の大隅典子先生、日比谷高校の村田律子先生、宮城第一高校の會田憲之先生が、学校現場での女子学生の理系進学について議論しました。また、工学研究科DEI推進プロジェクトの特任助教からは、現在東北大学工学研究科が行なっている女子学生への手厚い支援や、中高生向けのセミナー開催などの取り組みが紹介されました。セミナーを通して女子学生の理系進出を促すためには、家庭の中や公教育の現場はもちろん、理工学系の卒業後の就職先まで、至るところに無意識のバイアスが存在していることを認識し、教育制度の見直しを含めた抜本的な改革が必要であることを改めて考える機会となりました。



臼井恵美子教授

開催日：2024年12月5日(木) 16:00-17:45  
 開催方法：ハイブリッド開催(会場・オンライン)  
 会場：文科系合講義棟 2階 第3小講義室(経済学部)(川内キャンパス)  
 対象：東北大学または全国ダイバーシティネットワーク東北ブロック参画機関に所属する教職員、学生、大学院生  
 主催：東北大学大学院経済学研究科 政策研究センター・東北大学DEI推進センター  
 参加人数：50名/対面参加15名、オンライン参加35名(関係者含む)



## 誰もがあんしんして交流する 「DEI Lounge」がOpenしました

DEI Loungeの  
詳細はこちらから



10月16日、国際交流棟1階「交流スペース」で、DEI Loungeのオープニングイベント「話してみない? #ジェンダーのもやもや」が開催されました。当日は、山下恭徳理事(人事労務・環境安全・施設担当)をはじめ、学内の教職員・学生31名(関係者を含む)が参加しました。

前半は、DEI推進センター田中真美センター長の趣旨説明後、山下理事、関係部局の先生方よりご挨拶いただきました。

その後、参加者の皆様に、DEI Lounge(DEI推進センター)への期待を一言メッセージとしてご記入いただきました。

後半は、中林加南子氏(エル・パーク仙台管理事業課)と菊池しひろ氏(せんだい男女共同参画財団総務企画課)をお招きし、「話してみない? #ジェンダーのもやもや」というワークショップを開催し、参加者の皆様と日頃感じているジェンダーに関するもやもやを共有しました。11月以降は、各月のイベントとして、DEIに関する映画鑑賞会、読書会、講師の方をお招きした勉強会など、様々なイベントを通して、学生、教職員と交流することができました。DEIに関心を持つ学生・教職員は誰もが利用でき、参加することができます。ふらっと立ち寄れる「DEI Lounge」としてお気軽にご利用ください。



## TUMUG オンラインランチミーティング

TUMUGオンラインランチミーティングは、2020年4月よりスタートし、以後東北大学の女性研究者のネットワークの形成及び実質的な学際融合研究等への発展を目的に定期的実施されています。今年度後半は、10月、12月に開催され、各回30～40名前後の参加がありました。

10月に開催された第34回目は、2024年度本学に着任された新任教員の6名より、自己紹介を兼ねたご自身の研究について発表いただきました。

木村 可奈子准教授(国際文化研究科)、藤原 綾乃准教授(経済学研究科)、久保 沙織准教授(教育学研究科)、赤井 紀美准教授(文学研究科)、小松原 織香准教授(文学研究科) 伊藤 恵利特任教授(グリーン未来創造機構 グリーンクロステック研究センター、みる未来のための共創研究所 所長)

12月に開催された第35回目は、現在子育て中の先生方から「子育てと研究の両立ー子どもが小学生になったら」というテーマで、特に小学低学年のお子さんを育児中の先生方4名に話題提供をしていただき、アドバイザーとして子育て中の先生にも参加していただきました。

渡辺 寛子助教(ニュートリノ科学研究センター)、北村 恭子教授(工学研究科)、田原 淳士助教(学際科学フロンティア研究所)、山中 謙太准教授(金属材料研究所)、アドバイザー：伊賀 由佳教授(流体科学研究所)

2月に開催された第36回は、長谷 和子助教(生命科学研究科)、矢ヶ崎 将之講師(経済学研究科)にご自身の研究について発表いただきました。これからもオンラインランチミーティングを継続し、ネットワークを広げて行きたいと思っています。多くの方の参加をお待ちしております。



## お茶の水女子大学・東京大学・東北大学連携2024年度 オンライン集中講義「ジェンダード・イノベーション入門」

お茶の水女子大学・東京大学・東北大学が連携し、ジェンダード・イノベーションのオンライン集中講義を2月に開講しました。今年度は2単位が取得できる科目として、各大学10名の学生が受講しました。

ジェンダード・イノベーションの基礎から応用までを、三大学の教員によるリレー講義で学際的に学び、三大学の学生の混成グループでのグループワークでの議論を通して理解を深め、新しいアイデアを発表しました。

性差にもとづくイノベーションについて考えてみませんか?

ジェンダード・イノベーションの基礎から応用までを、お茶の水女子大学、東京大学、東北大学の教員によるリレー講義で学際的に学び、三大学の学生の混成グループで議論して理解を深め、新しいアイデアについて考察します。

他大学の学生さんと一緒にジェンダード・イノベーションという新しい概念について学ぶチャンスです。ふるってご参加ください。

お茶の水女子大学・東京大学・東北大学連携 オンライン集中講義  
**ジェンダード・イノベーション入門**

開催期間：2025年2月4日(火)、5日(水)、6日(木)、10日(月)(4日間)  
 形態：オンライン(座学とグループワーク) 受講者数：各大学10名(計30名)学部生対象



2024年度

# サイエンス・アンバサダー(SA)紹介と活動報告

詳細は  
こちらから



## [10/19(土)] 名取市館腰公民館主催「わんぱく体験 実験教室」

名取市館腰公民館主催の小学生向け科学体験イベント「わんぱく体験 実験教室」が、館腰公民館で開催されました。SA3名が、「ピカピカひかるLEDカードをつくろう!!」と「エコマイクをつくろう～音のふしぎ～」の2つの実験を実施しました。

「ピカピカひかるLEDカードをつくろう!!」では、LEDカードと銅箔テープを使って、閉じるとLEDが点灯するグリーティングカードを作りました。「エコマイクをつくろう～音のふしぎ～」では、プラスチックカップと針金などを使用し、声の振動をバネに伝えて反響(エコ)を知るエコマイクを作りました。参加した小学生から「銅線をきれいに折れたから嬉しかった。」「簡単にマイクやライトを作れて楽しかった。」などの声をいただきました。

当日は11名の小学生が参加しました。

会場 名取市館腰公民館



## [11/14(木)] ロンダ・シービンガー教授(スタンフォード大学)とサイエンス・アンバサダーとのランチミーティング

スタンフォード大学のロンダ・シービンガー教授とサイエンス・アンバサダー(SA)とのランチミーティングが開催されました。

大隅典子副学長(広報・ダイバーシティ担当)、薬学研究科、工学研究科のSA4名が参加し、ロンダ・シービンガー先生と「ジェンダー・イノベーション」や女性研究者としてのキャリア形成について意見交換を行いました。

会場 DEI推進センター



## [12/26(木)] 山形県立山形西高等学校・オンライン研究室訪問

科学技術に対する理解を深め、理科への興味・関心を高めることにより、将来の科学技術の進展に対応する能力の育成や、理系分野の進路選択の幅を広げることを目的とした「西高理系プロジェクト」の一環として、山形西高校1年次生70名、2年次生10名、教員5名の合計85名が参加しました。オンラインで開催された研究室訪問では、戸田雅子教授(農学研究科)と小嶋秀樹教授(教育学研究科)が研究室の紹介を行いました。SA3名は、自身の進路選択、高校時代の生活や勉強方法、研究内容について発表しました。

会場 オンライン



## [2/26(水)] 若手女性研究者向けキャリアセミナー「大学院の専門性がつなぐ女性のキャリア」および2024年度SA報告会

サイエンス・アンバサダー(SA)スキルアップセミナーをハイブリット形式で開催しました。今回は、お茶の水女子大学の高丸理香特任准教授を講師としてお招きし、若手女性研究者のキャリア形成や自己肯定感をテーマにご講演いただきました。当日会場ではSAを含む25名が参加したほか、学内で本テーマに関心のある方14名がオンラインで参加しました。

後半にはSA報告会を開催し、各種イベントの実施やnote記事、活動報告書の執筆など本年度のさまざまな活動で得たことや、これからの抱負をSA一人一人にご報告いただきました。進学するSAのなかには、来年度もSAとしての活動を希望する方も多くいらっしゃいました。会の最後にはSA交流会を行い、学年や専門分野を超えた意見交換が行われ、賑やかなコミュニケーションの場となりました。

会場 片平北門会館2階エスパス



## [3/20(木祝)] SA監修・出演「東京エレクトロン宮城presents小島よしおのまちぶらサイエンス」

SA7名が、特別番組「東京エレクトロン宮城presents小島よしおのまちぶらサイエンス」に4年連続で出演・監修しました。Part4となる今回は宮城県中央に位置する大和町と東京エレクトロン宮城を舞台に、小島よしお氏(タレント・お笑い芸人)と安東理紗アナウンサーとともに、身近にあるサイエンスの不思議と楽しさを伝えました。

放送局 東北放送





# 2025年度 TUMUG支援事業・次世代育成事業のご案内

下記の通り実施しますので、公募要領をご確認のうえ、ぜひご応募ください。

本部締切 4月~7月分

4月 April  
25日 東北大学 サイエンス・アンバサダー 第2回

5月 May  
9日 ネクストステップ 研究費 第1回

月末 仙台1ゾンタクラブ (予定)  
東北大学大学院 女子学生国際学会 発表支援事業 前期

7月 July  
4日 スタートアップ研究費  
25日 ベビーシッターおよび一時託児利用補助 第1回

※9月以降のスケジュールは、  
当センターのWebサイトをご確認ください。

## 研究支援要員

両立支援 女性リーダー育成

研究支援要員雇用のために  
必要な人件費の補助

対象者

- ◎出産・育児・介護等を行う教員・特任研究員  
特別研究員・技術職員(男女)
- ◎国の審議会委員等の要職に就く女性教員・  
技術職員、女性特任研究員・女性特別研究員

## ベビーシッターおよび 一時託児利用補助

両立支援

業務や研究と育児の両立に必要な  
ベビーシッター利用料等の補助

対象者

- 育児を行う教職員、特任研究員、特別研究員、  
博士学生等(性別問わず)
- ※職員も利用できるようになりました

## スタートアップ研究費

女性リーダー育成

新規採用の女性教員に、  
研究スタートのための研究費を支援

対象者

- 新規採用の女性教員(助教以上)

## ネクストステップ 研究費

女性リーダー育成

新規の研究課題の遂行や、研究成果  
の公開に必要な研究費の支援

対象者

- 女性教員(准教授、講師、助教、特任研究員、  
特別研究員、助手)

## 東北大学 サイエンス・アンバサダー

次世代育成

出張セミナー、オープンキャンパス、  
科学イベント等の企画・実施

対象者

- 大学院女子学生  
(性自認が女性の方も含む)

## 仙台1ゾンタクラブ 東北大学大学院女子学生 国際学会発表支援事業

次世代育成

国際学会発表に係る参加費用の支援

対象者

- 大学院女子学生

### 注意事項




- ※プログラムによって対象と締切が異なります。
- ※東北大学サイエンス・アンバサダーは、各部局担当係を通じての申請となります。各部局における締切にご注意ください。
- その他のプログラムは、希望者が直接申請することになります。詳細は、追って公開される要項をご確認ください。



## 速報

むらさきせんだいはぎ

# 2024年度 第8回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者決定

	所属・受賞者名	業績名	受賞コメント
人文・社会科学分野	 文学研究科 内藤 真帆 准教授	消滅危機に瀕した ヴァヌアツ共和国の 未解明無文字言語の 研究	このたびは栄えある「紫千代萩賞」を賜りまして、まことにありがとうございます。学部4年の時に大言語と少数民族語との研究格差に気づき、以来オセアニア辺境地の消滅の危機に瀕した言語の調査研究に取り組んできました。単身ツツバ島のジャングルに飛び込み、電気・水道・ガス・病院のない環境下で首長家族と寝食を共にしてツツバ語を覚え、試行錯誤しながら調査研究を行いました。途中、マラリア・デング熱を併発するなど、4度命の危険にさらされましたが、「ツツバ語の文法書」「3言語辞書」「三つの謎の解明」に辿り着くことができました。これまで調査研究にご協力くださった全ての方々へ心から感謝申し上げます。
農学・生命科学分野	 学際科学 フロンティア 研究所 千葉 杏子 助教	キネシンの自己阻害 異常とヒト疾患の 関わりについての研究	この度は、栄えある東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」を賜り、大変光栄に存じます。審査に携わった先生方をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。東北大学に着任して以来、周囲の多くの方々を支えられながら研究を続けてまいりました。研究の過程では幾多の困難に直面することもございましたが、皆様の温かいご支援のおかげで乗り越えることができました。本賞を励みとし、今後も一層研究に精進し、社会に貢献できる成果を生み出している所存です。また、これからの女性研究者の活躍の一助となれるよう、私自身も努力を重ねてまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。
医歯薬学・保健分野	 薬学研究科 佐藤 恵美子 准教授	低出生体重が及ぼす 世代を超えた 影響の研究	この度は栄誉ある「紫千代萩賞」を受賞することができ、大変嬉しく思っております。薬学研究科の教職員の皆様、共同研究者の皆様、研究室の学生の皆様、家族など多くの方々を支えられ、現在まで研究をつづけることができております。またTUMUG支援では、長期にわたり研究継続を支援していただいております。皆々様に心から感謝しております。私は薬学研究科で女性薬学研究者育成チーム(POLISH)を創設し、「将来の薬学研究を担う女性研究者の育成」「女性リーダーとしての意識向上」を目的として研究者の育成活動をしております。将来の研究者を目指す女子学生のロールモデルとなれるよう、引き続き精進を重ねていきたいと思います。
		理学・工学分野 該当無し	

DEI推進コラム

# 「どうしてだろう」からはじまる対話で ダイヤの原石を磨く

はじめまして。私自身、重度の聴覚障がいがあり、音声でのコミュニケーションは難しいので、大学では手話と文字、あるいは音声認識と合成音声(Text-to-Speech)の方法で周囲とコミュニケーションを図っています。4月から東北大学災害科学国際研究所で助教としてキャリアをスタートすることになりました。私は幼い頃から川沿いに落ちているただの石ころにも何か意味があるのでは?と考える人でした。いくつかの石を触ってみると、感触がそれぞれ違う。あれ?どうしてだろう。皆さんは「ダイヤの原石」という表現を聞いたことがありますか?一見ただの石でも、磨くことでダイヤに化けることもある、という意味が込められています。ここで、皆さんにお尋ねしたいことがあります。例えばレポートで「三者関連」という表現があった場合、皆さんならどう添削しますか?この表現に違和感を覚えた後輩は、私に「三者関連」の間に助詞「の」を入れたほうが良い」と助言してくれました。それに対し、私は「三者面談」の言葉はあるのに、「三者関連」はダメなのですか?不思議ですね」と疑問を投げかけました。それで、「三者関連」をお題とした対話が始まったのです。

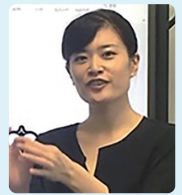
言語感覚の差異を擦り合わせる対話を通じて、1)2)の気づきが得られました。1)対話はお互いの言語化力を鍛え、自分を振り返る機会になること、2)お互いの間に判読性・可読性・視認性の優先順位にずれがあること。そして、最終的には定着していない用語は間に助詞を入れるという、お互いに納得できる結論に至りました。

聴覚障がいがあると、聴者に比べて入ってくる情報量が限られてきます。この例のように、「おや?」と疑問を覚えたら、「聴覚障がいがあるから、手話だから、喋れないから」と一方的に決めつけるのではなく、お互いに納得できる答えを探すために、積極的に対話を重ねてほしいのです。まるで、ダイヤの原石を磨くように。

東北大学には、障がい・性別・文化・国籍・言語など、様々な背景をもった方々がいらっしゃいます。私にとっても、彼らとの対話は、自分の障がいのことはもちろん、女性研究者としての視点や日本の文化について自分を顧みる絶好の機会になっています。対話を重ねることで、自分の思考が磨かれ、オーバーラップ(overlap)が広がっていくのを実感しています。「対話によって磨く」という作業は、手間がかかるものかもしれない。でも、その手間をかけるからこそ、原石がダイヤに変わることもある。そう考えるとワクワクしませんか?

石川 美希

東北大学大学院  
教育学研究科  
博士課程後期  
(2025年4月～  
東北大学災害科学  
国際研究所 助教)



次世代育成

## 2024年TU-UW AOS DEI関連学生交換プログラム

TU-UW Academic Open Space(AOS)は、東北大学(TU)とアメリカのワシントン大学(UW)が共同で教育と研究を促進するためのプログラムです。TUからUWへと学生派遣事業として、人文社会科学分野では、根本浩希さん(文学研究科)、自然科学分野では、王彬澤さん(環境科学研究科)が採択され、研究に役立つDEIに関する知識、経験を得るために米国ワシントン州に派遣されました。

こんにちは。文学部4年で、この春から文学研究科の修士課程に進学予定の根本浩希と申します。普段は、日本で暮らす性的マイノリティの外国人に関する社会学的研究を行うほか、DEI Loungeやグローバルラーニングセンターの学生スタッフとして、多様な学生が快適に過ごせるようなキャンパスづくりに取り組んでいます。今回のTU-UW AOS交換プログラムでは、ワシントン大学の先生方や学生との交流をはじめ、私の研究テーマに関連する施設への訪問や、DEI関連の取り組みの視察などを行いました。

今回の経験で最も強く感じられたこととして、アメリカ社会におけるDEIへのバックラッシュがあります。ワシントン大学にて、主に性的マイノリティの学生に対して支援を提供する施設を訪問した際には、現在起きている政治面での変化を理由に、「この先、センターを閉じなければいけない日が来るかもしれない」といった不安の声が聞かれました。また、DEIの分野で研究を行う教授や学生らも、今後の研究の継続可能性について、先の見えない状況を嘆いていました。ですが、そのような状況にあってもなお、多様な属性を有する人々が受け入れられ、尊重されることを目指して活動や研究に取り組むかれらの姿に、私自身も深く心を動かされると同時に、奮い立たされるような気持ちになりました。また学術的な側面に関しても、私の研究分野における英語圏での潮流に触れられたことは、今後に役立つ有益な機会となりました。分野の最先端の議論を展開している教授や学生との対話からは、従来の学問分野の境界線を再帰的に問い直し、これまで正当な位置を与えられてこなかった課題やテーマに取り組むことの重要性を学ぶことができました。最後に、渡航前から多くの手助けをしてくださった関係者の皆様をはじめ、このプログラムを通して出会うことができた全ての人に、この場を借りて感謝申し上げます。今回の経験で得た学びを、東北大学のみならず社会全体へと還元できるように、これからより一層研究に打ち込むほか、キャンパスにおけるDEI推進のため、学生の立場から尽力して参ります。



根本浩希さん(文学研究科)

渡航期間 2025年  
2月25日～2月28日(3泊4日)

次回のNewsletter Vol.5にて  
王彬澤さん(環境科学研究科)

渡航期間 2025年  
3月16日～3月21日(3泊5日)

報告を予定しております。

各記事の詳細および当センターの活動予定は、WEBやSNSをご覧ください。



東北大学  
ダイバーシティ・エクイティ &  
インクルージョン(DEI)  
推進センター

TEL 022-217-6092

所在地 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1  
E-mail dei-center@grp.tohoku.ac.jp  
WEB https://dei.tohoku.ac.jp

